

FOR THE FUTURE OF IRAQ

TOWARD RECONSTRUCTION OF ELECTRICITY SECTOR

ASSISTANCE BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

— イラクの電力分野の復興のために —

イラクでは自らの国を自らの手で再建するために、政府も国民も復興に向け努力しています。

我が国は、政府開発援助(ODA)による支援とムサンナー県に派遣した陸上自衛隊、空輸を行ってきた航空自衛隊による人道復興支援活動を「車の両輪」としてイラク国民の復興に向けた努力を支援してきました。このような支援の成果が次々と実を結びつつあります。

我が国は、国際社会と協調して、今後ともイラク政府の主体的な復興努力を支援していきます。



<日本の支援により建設されたサマーワ大型発電所>

2009年3月

外務省 国際協力局

はじめに

イラクのさらなる発展のために

- 駐イラク日本大使からのご挨拶 -

ムサンナー県の皆様

この度、我が国の支援によりサマーワ大型発電所が完成したことを大変嬉しく思います。

イラクにおいて、電力供給の改善は喫緊の課題であり、我が国はイラク全土の主要な発電所や変電所の復旧に取り組んでいます。特にサマーワ市があるムサンナー県はイラク 18 県の中でも唯一発電所がなく、他県からの供給に頼っていたため、住民は恒常的に不便な生活を強いられてきました、私自身がサマーワにおける日本政府連絡事務所代表として 2004 年 7 月～2005 年 1 月に駐在していたときも、そのような電力事情を背景に、地元住民から電力分野における支援について繰り返し直接要請がありました。

このような状況を改善すべく、2006 年 3 月、総額 127 億円(約 118 百万ドル)の我が国無償資金による本件工事が開始されました。しかしながら、その後のイラクにおける厳しい治安情勢もあり、本日の完成に至るまで道のりは決して平坦ではありませんでした。特に我が国の技師がサマーワに入れない中、遠隔操作による指導は困難を極めましたが、結果的に「イラク人による、イラク人のための発電所建設」となり、その経験は、イラク人技師の能力向上にも資するものと期待しています。改めて、勇敢なプロジェクト関係者のご尽力に敬意を表します。



< Rumaytha Deaf Institute にある友好の絵 >

このサマーワ大型発電所の建設により、新たに 60 メガワットの電力が供給されることとなります。これによって、ムサンナー県における効率的かつ安定的な電力供給が可能となり、住民の皆様の生活環境が改善していくことを強く祈念しています。

このように、サマーワに駐留していた陸上自衛隊による人道復興支援活動と我が国 ODA によるイラク復興に向けた取り組みは、着実に成果を生み出しており、更なる進展に向けて今後も引き続き取り組んでいく所存です。

2008 年 12 月 22 日

在イラク日本国大使館
特命全権大使 小川 正二

日本支援に感謝して イラク電力大臣からの感謝状

... سعادة السفير الياباني المحترم ...

أصالة عن نفسي ونيابة عن الشعب العراقي أقدم الشكر الجزيل إلى الشعب الياباني الصديق الذي أثبت طيب نواياه إتجاه شعبنا والذي ساهم في بناء هذا المشروع الذي سيجبر محافظة المثنى بقدرة (٦٠) ميكا واط والتي تؤمن (ربع) ما يحتاجه سكان المحافظة من الطاقة الكهربائية .

أنا نتطلع اليوم ومن منطلق الصداقة بين الشعوب إلى مشاركة يابانية أكبر في عملية أعاده إرساء البنى التحتية للعراق خاصة بعد أنطلق مشروع العهد الدولي - حيث أن خطه وزارة الكهرباء التي تم إعتمادها تتطلب مشاركة الشركات اليابانية المتخصصة في مجال الطاقة لما تمتلكه من خبرات وإمكانيات أثبتت فاعليتها في العراق سابقاً ونحن نرحب بمشاركتها في الإسراع بتنفيذ الخطه المركزية للوزارة التي بنيت على أساس علمي مدروس ، أن هذه الهدية تدل على مستوى الخلق الانساني الذي يتحلى به المجتمع الياباني .

تحية نقلتها من الحكومة العراقية والشعب العراقي إلى حكومة وشعب اليابان وسنعمل معاً لتطوير العلاقات بين بلدينا على أساس الاحترام المتبادل والمصالح المشتركة .

وفلكم الله... والسلام عليكم ورحمة الله وبركاته

الدكتور كريم وحيد حسن

وزير الكهرباء

٢٠٠٨/١١/٤

I, my myself, on behalf of the Iraqi people, present the sincere gratitude to the friendly Japanese people who proved their good intentions towards our people and participated in this project which will provide Al-Muthana governorate with 60 MW capacity and will secure quarter of what the governorate people need in the electric power.

From the friendship between our peoples, we are today looking forward to seeing more Japanese participation in the process of strengthening the infrastructures of Iraq, especially after launching the International Compact for Iraq. The adopted plan of the Ministry of Electricity requires the participation of the Japanese companies specialized in energy as they have experiences and potentials whose effectiveness was proved in Iraq in the past. We welcome their participation in accelerating the

implementation of Ministry's Central Plan, which is based on well-studied academic research. The grant assistance to Samawah shows the level of high moral which the Japanese society possesses.



< ساماواهو children >

We deliver best regards from the government and people of Iraq to the government and people of Japan and we will work together to develop the relations between our two countries on the basis of mutual respect and shared interests.

May God grant you success, and may peace be upon you.

4-Nov-2008

الدكتور كريم وحيد حسن

وزير الكهرباء

イラク共和国 電力省 大臣

Dr. Karem Wahed Hassan

Overall View 未来への道のり 電力分野の復興に向けた日本の取り組み

— サマーワ大型発電所と電力分野での協力 —

1. 全体像

イラクの電力分野は、長年の戦争、紛争、経済制裁等により、新規投資や維持管理が不十分で、発電所や変電所が大幅に機能を低下しているために、一般家庭、病院、工場、水道施設、下水処理施設等の公共施設に十分な電力が供給されておらず、日常生活や産業活動に大きな支障を生じています。こうした事情に対して日本政府は、イラク全土の主要な発電所や変電所の復旧に取り組んできました。

我が国は、2003年10月、「当面の支援」として15億ドルの無償資金協力と、中期的な復興ニーズに対する支援として円借款による最大35億ドルまでの支援の最大50億ドルのイラク復興支援を表明しました。電力分野への支援は、このうち約4分の1の支援額を占めています（無償資金協力は実施・決定済の16.9億ドル中4.9億ドル、円借款は交換公文署名済の24.5億ドル中7.3億ドル）。

無償資金協力による我が国の支援では、発電所の新設および既設施設の更新・改修を実施し、総出力2,060メガワット(MW)、約77万世帯(約385~462万人分)の電力供給施設の改善に貢献しました。2005年時点で、8,000MWのイラク全土の電力需要に対し、4,000MW~5,000MWの発電能力しか有していなかったとされるイラクの電力事情が大幅に改善されることが期待されています。

2. 無償資金協力による支援

我が国は、イラク政府に対する無償資金協力、UNDP(国連開発計画)を通じた無償資金協力及び拠出金、地方公共団体に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力により、支援を実施してきました。

イラク政府に対する緊急無償資金協力

- サマーワ大型発電所建設計画(約127億円)
- タジ・ガスタービン発電所復旧計画(約73億円)
- モスル・ガスタービン発電所復旧計画(46億円)
- 移動式変電設備整備計画(約79億円)
- モスル水力第一発電所復旧計画(約57億円)

草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

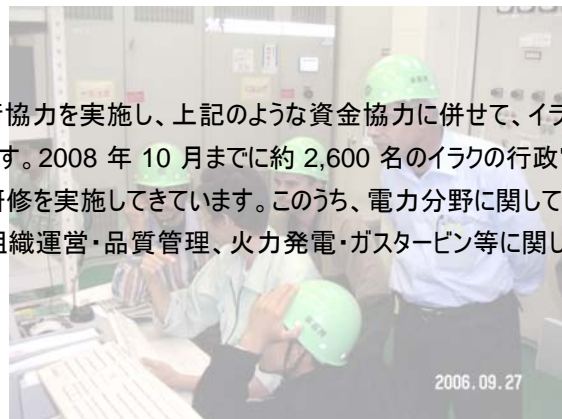
- コルニッシュ通り発電機整備計画(約0.9億円)
- サマーワ市小型発電機整備計画(約1.5億円)

UNDP(国連開発計画)を通じた無償資金協力

- ▼ タジ・ガスタービン発電所復旧計画 II(約26 mil \$)
- ▼ モスル・ガスタービン発電所復旧計画(約18 mil \$)
- ▼ ハルサ火力発電所復旧計画(約18 mil \$)
- ▼ 中央配電所(NDC)復旧計画(約17.5 mil \$)
- ▼ ムサンナー県電力網強化計画(約6.4 mil \$)
- ▼ アル・ムサイブ火力発電所復旧計画(約16 mil \$)

3. 技術協力による支援

また、我が国は、国際協力機構(JICA)による技術協力を実施し、上記のような資金協力に併せて、イラク人のキャパシティ・ビルディングのための協力も行っています。2008年10月までに約2,600名のイラクの行政官及び技術者に対する日本及びイラク周辺国における研修を実施してきました。このうち、電力分野に関しては、これまで、電力事業制度、電力ケーブル接合技術、組織運営・品質管理、火力発電・ガスタービン等に関し、約460名に対する研修を実施しました。



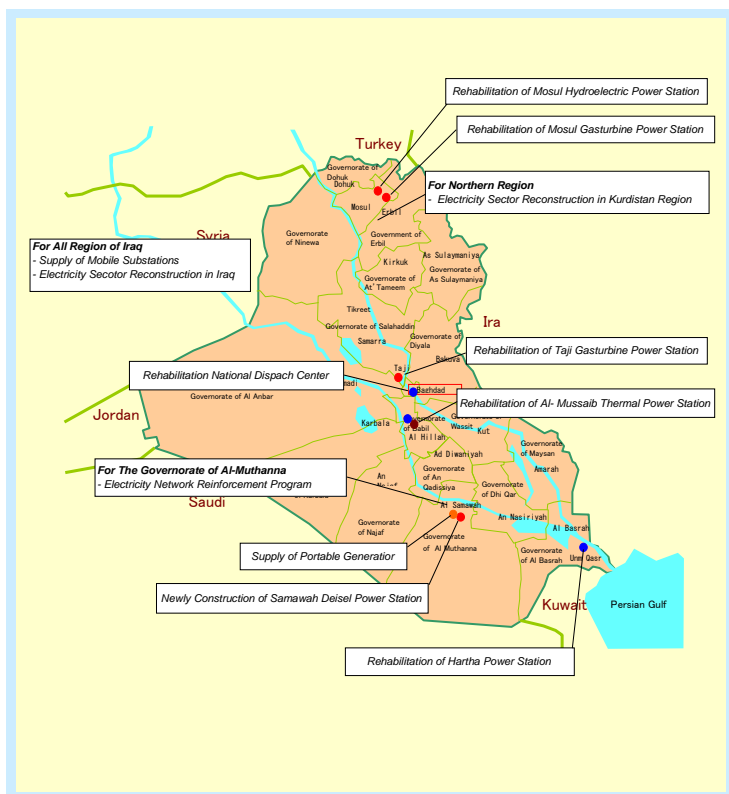
4. 円借款による支援

さらに、有償資金協力(円借款)による支援事業を通じて、イラクの電力事情が更に改善し、同国の復興・開発が進むことが期待されています。

円借款事業

- ◆ アル・ムサイブ火力発電所改修計画(約 368 億円)
- ◆ 電力セクター復興計画(約 326 億円)
- ◆ クルド地域電力セクター復興計画(約 148 億円)

<日本の支援により建設・復旧される発電所・変電所>



<日本政府による技術協力の実績－研修を受けたイラク人技術者－> (2008年10月時点)

年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
分野/種別							
医療・保健	102	276	138	61	37	5	619
ガバナンス	0	90	111	42	89	4	336
電力	0	81	128	105	95	51	460
経済	0	0	2	0	0	1	3
農業	0	0	54	144	207	37	442
水・環境	0	24	33	18	40	3	118
上下水道	0	46	53	87	67	45	298
インフラ	0	0	5	9	11	11	36
文化・教育	0	89	14	16	14	7	140
その他	0	28	31	57	21	2	139
合計	102	634	569	539	581	119	2,591

Project 1

プロジェクト紹介 サマーワ大型発電所建設計画(無償資金協力)

プロジェクトの背景

サマーワ市を含むムサンナー県の電力需要は200メガワットと推定されますが、2004年初めには、ムサンナー県内には発電所がなく、電力供給は他県からの送電に依存していました。県外からの電力も40～50メガワットに過ぎず、恒常的かつ長時間の停電が発生し、住民の生活は大きな打撃を受けていました。そのため、ムサンナー県民からは県内に発電所を建設し、安定した電力供給を行うことが切望されていました。こうした電力

事情を背景に、イラク電力省は日本政府に対して、サマーワの製油所から生産される重油を燃料として、総出力60メガワットのディーゼル発電所の建設を要請しました。

我が国は、こうしたムサンナー県の厳しい電力事情を踏まえて、総額で約127億円の無償資金協力を2005年に決定し、今般、現場工事を担ったイラクの工事会社をはじめ、プロジェクト関係者の尽力により発電所が完成しました。

プロジェクトの概要

－ 60メガワット(ディーゼルエンジン15メガワット×4基)の発電所の建設



サマーワ市の位置



発電所の位置

プロジェクト完了までの経緯

2003年10月	イラク復興の当面の支援として約15億ドルの無償資金協力を表明
2005年5月	プロジェクト実施について閣議決定
2005年7月	イラク電力省との書簡の交換(E/L)
2008年9月	発電所の稼働開始
2008年12月	発電所の開所式
2009年1月	4基全ての発電設備の引渡し完了



プロジェクト着工前の建設予定地
(2006年3月)

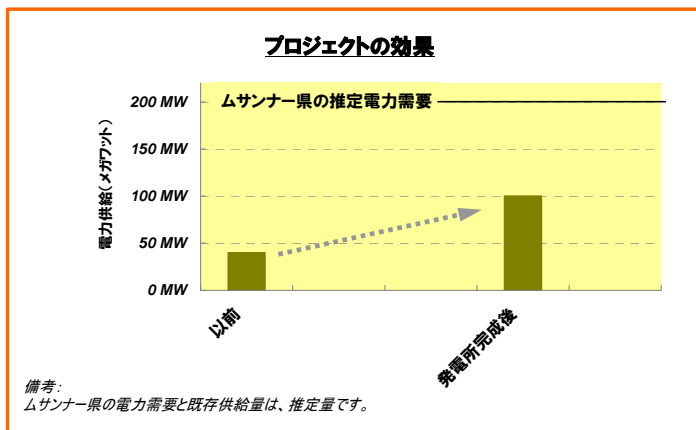


建設されたディーゼル発電所
(2008年5月)

プロジェクトの効果

建設された発電所により、一般家庭約2万世帯(人口約10~12万人)に配電ができるようになります。サマーワ市周辺地域では、安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されます。

本発電所の建設により、ムサンナー県の電力需要200メガワットのうち、ほぼ半分の電力量に相当する100メガワット(既存40メガワット+新規60メガワット)を供給できるようになります。



送電が開始されたサマーワ市内の様子
(2008年10月)

発電所の完成と住民への送電開始の慶びとして —日本人プロジェクト関係者からの報告—

「**発電所の試運転が開始されました!**」2008年9月に、プロジェクトの実施監理を担っているコンサルタントチームより発電所の試運転開始が伝えられた時、プロジェクト関係者全員が安堵し、プロジェクトの開始から2年にわたった工事の経過を感慨深く振り返りました。今回の発電所の稼動に際し、プロジェクトに関わった工事関係者全員のこれまでの努力が報われたことに大いに感激するとともに、今後の周辺地域の電力事情の改善と復興事業への更なる貢献を期待しています。



<2006年3月 工事の鍬入れ式: 於サマワ>

1. 工事の実施状況について

本プロジェクトは、日本の主契約企業の下、本件建設工事をイラクの工事業者が、工事の施工管理をデンマークの企業が行い、施工管理の実施監理を日本のコンサルタント及びイラクに拠点を持つサブ・コンサルタントが行うなど、多くの関係企業の連携によって進められました。他の電力支援案件と同様、本プロジェクトに関しても、イラク近隣国からの遠隔操作による施工管理が行われました。そのため、イラク人エンジニアのみによる現場工事を行うこととなり、まさに、イラク人の手によるイラク住民のための新しい大型発電所の建設となりました。

確実な施工を行うために、発電所内にTVモニターを設置し、テレビ会議システムを活用しながら、工事作業を行うイラク人エンジニアと施工管理会社とで情報のやり取りしながら現場作業を行いました。

一連の工事作業をスムーズに進めるために、関係者による定例会議を毎月ヨルダンで行いました。この会議では、工事関係者が一同に出席して、工事の進捗の確認や、技術的な問題の抽出、解決方法の検討など、プロジェクト運営全てに関わる諸問題について話し合わ

れました。また、プロジェクトサイトであるサマワにおいても、現地に派遣されている電力省のプロジェクトマネージャーを中心に、現地コンサルタント、現地工事業者などと綿密に打合せを行いつつ、確実な工事作業を進めてきた次第です。



<2006年12月 工事関係者会議: 於アンマン>

2. 政府と工事関係者が一つのチームとして

治安情勢が予断を許さなかったイラクにおいて、無事に必要な資機材を送り届け、大規模な発電所を建設する今回のプロジェクトで鍵を握ったのが、プロジェクト関係者全員の安全確保と、遠隔管理方式でも高い品質を確保できる管理体制の実現でした。これらについては、イラク政府、日本政府、調達代理機関(JICS)、コントラクター、コンサルタント、輸送会社、警備会社ら関係者間でその警備方法や工事体制の詳細についてミーティングを重ねました。議論を進めていく中で、それぞれの意見・考えを交わし、個々の役割を理解した上で、全員が「一つのチーム」であることを再認識するとともに、プロジェクトの安全で確実な実施体制が整えられました。

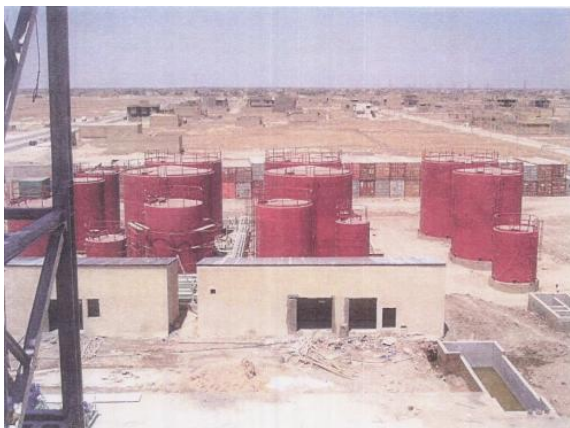


<2007年12月 ディーゼルエンジンの輸送>

このようにして、発電所の建設工事は終了し、発電機の試運転開始のための調整を行いつつ、2008年9月よりサマーワ周辺住民への電力供給が一部開始されました。その後、徐々に発電量を増加させ、2008年12月にはサマーワ市の必要電力量にほぼ相当する60メガワットまで発電量を増加させました。

工事を進めるにあたっては、困難もありましたが、プロジェクト関係者の昼夜を分かたぬ尽力の故に、無事今日に至っています。

このように当該国のエンジニアのみで実際の工事作業を実施したプロジェクトは、日本としても例のない挑戦でした。多くの政府関係者や工事関係者の復興への願いと努力の結晶による発電所の完成といえます。



<2007年8月 建設工事>

3. イラク人技術者による工事作業

日欧エンジニアが施工管理を行う中で、問題解決のための実務作業の多くは、イラク人エンジニアに頼っていたといえます。工事の中では、度々技術的な問題が発生

しましたが、その都度、イラク人エンジニアと日欧エンジニアが共に解決策を模索し、作業を進め最終的に信頼性のある発電所の完成を目標としてきました。



<2008年7月 ディーゼルエンジンの設置>

このような意味において、工事期間中に、発電所の建設に伴う技術的諸問題をイラク人エンジニア自らが体験することとなり、苦労もありましたが、発電所を建設するノウハウを身につける貴重な技術移転の場ともなり、技術力の向上が図れました。



<2008年1月 イラク人技術者による機器調整>

4. イラクの復興を実現するために

イラク国内では徐々に平和な生活を取り戻しつつあります。イラク復興を望む多くの人々と、それを支える多くの方々とともに、プロジェクトに携われたという喜びと誇りをもちつつ、これからのイラクの復興を固く信じています。

Project 2

プロジェクト紹介 タジ・ガスタービン発電所復旧計画 (無償資金協力)

プロジェクトの背景

タジ・ガスタービン発電所は総出力 17.5 万キロワットの発電能力を有し、人口 500 万人を超えるバグダッド市の人々の生活を支える重要な発電所の一つとなっています。しかし 1970 年代の運転開始から約 30 年が経過し、湾岸戦争などの影響で改修ができない状況が続いたため、発電量は当初の 2 割程度にまで落ち込んでいました。そのため、近年、特にバグダッド周辺の電力不足が深刻となり、バグダッド近郊に

位置する発電所の復旧が喫緊的な課題となっていました。

このことから、イラク電力省は、バグダッド市の北に位置するタジ・ガスタービン発電所の復旧について必要な資金援助を日本政府に対して要請してきました。我が国は、これに対して総額で約 73 億円の直接支援による無償資金協力及び UNDP を通じた約 2,590 万ドルの支援を 2004 年に決定しました。

プロジェクトの概要

- ー 日本の直接支援
既設発電プラント(2号機、3号機、および5号機)の撤去と新設(合計75メガワット)
- ー UNDP を通じた支援
既設発電プラント(1号機、4号機、および6号機)の改修(合計75メガワット)



完成後の発電プラント5号機



発電プラント2号機および3号機全景

プロジェクトの効果

現場工事を担ったイラクの工事会社他、プロジェクト関係者の尽力により、2007 年に無事にプロジェクトは完了しました。

日本の支援(本プロジェクトと UNDP を通じた支援)により、発電所は一般家庭約 7.5 万

世帯(約 37~45 万人分)に配電ができるようになりました。この結果、周辺地域では、安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されます。

Project 3 プロジェクト紹介 モスル・ガスタービン発電所復旧計画 (無償資金協力)

プロジェクトの背景

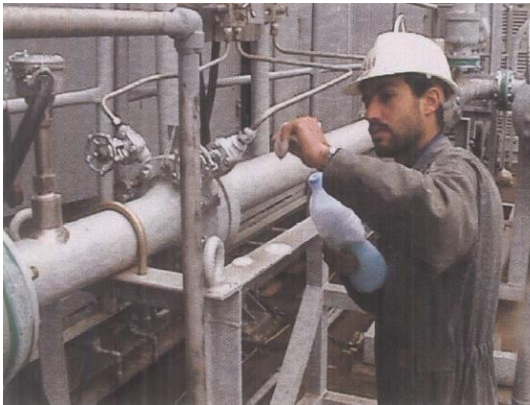
モスル・ガスタービン発電所は、バグダッドの北約400kmに位置し、総出力240メガワットの発電能力を有し、イラク第二の都市であるモスル市に電力を供給する重要な発電所です。1970年代には日本の企業が発電機の一部を納入しました。しかし運転開始から30年が経過し、老朽化が進んでいたことから、イラク電力

省は、モスル・ガスタービン発電所の復旧について、必要な資金援助を日本政府に対して要請してきました。

我が国は、これに対して、総額で約46億円の直接支援による無償資金協力及びUNDPを通じた約1,760万ドルの支援を2004年に決定しました。

プロジェクトの概要

- ー 日本の直接支援
既設発電プラント(1号機と3号機)の撤去と新設(合計50メガワット)
- ー UNDPを通じた支援
既設発電プラント(2号機および4号機)の改修(合計50メガワット)



イラク人エンジニアによる工事作業



設置された発電プラント

プロジェクトの効果

現場工事を担ったイラク国内の工事会社他、プロジェクト関係者の尽力により、2008年に全ての工事作業が完了しています。

今般の日本の支援(本プロジェクトとUNDPを通じた支援)による発電プラントの改修により、

一般家庭約5.0万世帯(約25~30万人分)に配電ができるようになりました。この結果、周辺地域では、安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されます。

プロジェクトの背景

イラクでは、イラク戦争での被災のほか、湾岸戦争以降の経済制裁中のメンテナンス不足、過負荷運転、老朽化等により、多くの2次変電所(長距離送電用の高圧電圧を地域送電用電圧に変圧する変電所)の機能が不全に陥りました。その結果、発電所において発電した電力を一般家庭、工場等へ十分配電することができず、日常生活や産業活動に大きな支障

を生じていました。

このような状況から、イラク電力省は、首都バグダッド市とその近郊および地方の主要都市の2次変電所の改修に必要な資金援助を日本政府に対して要請してきました。我が国は、これに対して、移動式の変電設備23台を供与することとし、総額で約79億円の無償資金協力を2004年に決定しました。

プロジェクトの概要

- ー 132/33 キロボルトの移動式変電設備 13 台の供与
- ー 132/11 キロボルトの移動式変電設備 10 台の供与



イスカン・アル・キールに配置された変電設備



ランディアに配置された変電設備

プロジェクトの効果

日本の支援により、一般家庭約 23 万世帯(約 115~138 万人分)への配電が可能となりました。この結果、周辺地域では、安定的かつ

効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されています。

Project 5 プロジェクト紹介 モスル水力第一発電所復旧計画 (無償資金協力)

プロジェクトの背景

イラク第2の都市であるモスル市の北西約50kmにチグリス川の豊富な水量を活用したイラク最大の水力発電施設があります。この発電施設は、モスル水力第一発電所(750メガワット)、モスル水力第二発電所(60メガワット)、モスル水力第三発電所(300メガワット)の3カ所からなり、このうち、モスル水力第一発電所については、日本企業が発電施設を納入し、1986年に運転を開始した発電所です。

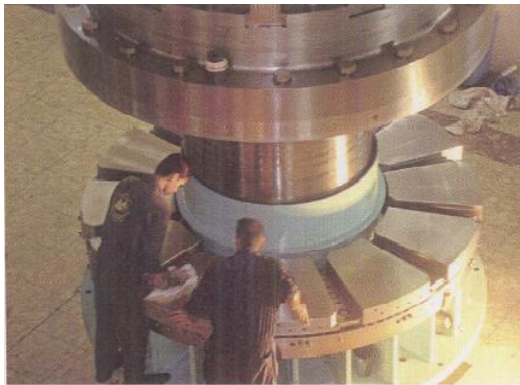
同発電所は、現在もイラク全土の20%弱分の

電力を供給していますが、運転開始から20年が経過しており、各機器には経年劣化による機能低下が見られ、電力供給の信頼性低下が心配されていました。

このことから、イラク電力省は、モスル水力第一発電所の改修について、必要な資金援助を日本政府に対して要請してきました。我が国は、これに対して、モスル水力第一発電所の改修のために、総額で約57億円の無償資金協力を2004年に決定しました。

プロジェクトの概要

- 一 既設発電プラント(1号機、2号機、3号機、および4号機)の補修と設備更新



2号機の軸受更新



2号機の回転子(ローター)の設置

プロジェクトの効果

日本の支援による発電プラントの補修により、同発電所より、一般家庭約5.2万世帯(約26~31万人分)への配電が増加することになります。この結果、電力需要が逼迫している周辺地域で

は、より安定的な電力供給が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されます。

プロジェクトの背景

ハルサ火力発電所は、日本政府による円借款を通じて蒸気タービン 4 基が設置され、1979 年に竣工した最大出力 800 メガワットの発電能力を有するバスラ近郊の火力発電所です。しかしながら、同発電所は建設から 30 年が経過し、ボイラー等の設備の激しい老朽化に加えて、イラク戦争時に部品倉庫や送電網の導体等の略奪などで、現在は発電能力を低下して稼働せざるを得ない状態でした。一方で、発電所から電力の

供給を受けていた南部地域の一部では、別の発電所からの電力が供給されたいものの、これも停止されたため、周辺地域の極度の電力不足が大きな問題となっていました。このような背景から、我が国は、イラク電力省の要請に応える形で、2003 年にハルサ火力発電所の緊急復旧につき、総額約 1,780 万ドルの緊急無償資金協力につき、UNDP を通じて支援することを決定しました。

プロジェクトの概要 UNDP を通じた支援

- － ハルサ火力発電所で稼働中の 2 基のボイラーの修復・整備
- － バスラ地域の送電線網及び変電所の修復



変電設備の改修



発電所内設備の修理

プロジェクトの効果

UNDP を通じた日本の支援により、バスラを含む南部地域 4 県の約 42.4 万世帯(約 212～254 万人分)への配電が可能となり、冷房機器

や給水施設の稼働や産業向け電力供給も可能となり、住民の生活向上に大きく貢献することが期待されます。

Project 7

プロジェクト紹介 中央配電所(NDC)復旧計画(無償資金協力)

プロジェクトの背景

中央配電所は、1965年に建設された配電所で、イラク全国規模の電力供給を管理する極めて重要な施設です。しかし、湾岸戦争などの影響で改修ができない状況が続き、また略奪や放火の対象など、施設や機材に損壊が大きく、近年の電力の安定供給に大きな支障が生じました。

このため、イラク電力省は、中央配電所の復旧について、必要な資金援助を日本政府に要請しました。我が国政府は、このイラク側からの要請に応えるかたちで、総額約1,755万ドルの緊急無償資金協力につき、UNDPを通して実施することを、2003年に決定しました。

プロジェクトの概要 UNDPを通じた支援

- － 中央配電所施設の復旧及び資機材供与
- － 配電制御システムの設置



＜改修前の施設の様子＞



改修を終えた管理棟



改修を終えたコントロールルーム

プロジェクトの効果

UNDPを通じた日本の支援による中央配電所の修復は、イラクにおいて発電された電力の適正かつ安定的な供給を可能にし、病院、給水施

設、下水処理施設等、人道上、重要な施設を安定的に稼働させることが期待されます。

Project 8

プロジェクト紹介 ムサンナー県電力網強化計画(無償資金協力)

プロジェクトの背景

ムサンナー県では、既設変電所や配電網が老朽化し、停電が発生しやすく、地域の人々への電力の安定供給がままならず、早急の施設改修が喫緊の課題となっていました。このため、我が国

は、イラク電力省の要請に応える形で、2005年にムサンナー県の電力強化に対し、総額約640万ドルの緊急無償資金協力につき、UNDPを通して実施することを決定しました。

プロジェクトの概要 UNDPを通じた支援

ー サマーワ変電所の復旧と地域配電網の整備

プロジェクトの効果

UNDPを通じて日本の支援により、ムサンナー県内、特にサマーワ周辺でより安定した電力供給を受けることが可能になりました。また、南部配電部に対する配電網計画策定により、南部地域

の約400万人が恩恵を受けることができ、市民生活の安定及び円滑な復興プロセスの基盤構築に貢献することが期待されています。

Project 9

プロジェクト紹介 電力セクター復興計画(有償資金協力)

プロジェクトの背景

イラクにおいて、電力セクターはあらゆる経済・社会活動の基盤です。しかしながら、イラン・イラク戦争や湾岸戦争等の紛争や経済制裁により、電力セクターへの新規投資や維持管理が不十分であったことから、送電・配電部門に関しても、機能が低下し、電力供給が不安定になっています。こ

のため、我が国は、イラクからの要請を踏まえ、イラク国内で必要性、実施可能性、事業効果等の観点から優先度の高い地域の電力供給の安定化のため、供与限度額を325億9,000万円の円借款を供与することを決定しました。

プロジェクトの概要

送電・配電部門における変電用資機材の供給等

円借款供与限度額：325億9,000万円

金利：0.75%

償還(据置)期間：40(10)年

調達条件：一般アンタイト

期待される効果

電力供給の安定的な向上、市民生活の安定

化促進、経済・産業の活性化が期待されます。

Project 10 プロジェクト紹介 クルド地域電力セクター復旧計画 (有償資金協力)

プロジェクトの背景

イラクにおいて、電力セクターはあらゆる経済・社会活動の基盤です。しかしながら、イラン・イラク戦争や湾岸戦争等の紛争や経済制裁により、電力セクターへの新規投資や維持管理が不十分で

あったことから、イラク北部のクルド地域(ドホーク県、エルビル県、スレイマニヤ県)においても、イラクの他の地域と同様に変電・配電機能が低下しており、電力供給が不安定になっています。

プロジェクトの概要

クルド地域において、変電・配電用の資機材供給や施設を整備等することで、クルド地域において、電力供給の安定化を図ります。

円借款供与限度額： 147億4,700万円

金利： 0.75%

償還(据置)期間： 40(10)年

調達条件： 一般アンタイド



プロジェクトの効果

電力供給の安定的な向上、市民生活の安定化促進、経済・産業の活性化が期待されます。



お問合せ先

外務省 国際協力局 無償資金・技術協力課

〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1

電話: 81-3-5501-8000(代表)

ホームページ: <http://www.mofa.go.jp/index.html>

財団法人 日本国際協力システム(JICS)

〒162-0067 東京都新宿区富久町 10 番 5 号新宿 EAST ビル

電話: 81-3-5369-6960

ホームページ: <http://www.jics.or.jp/index.html>